



Italian Living Innovation

保温ポット付 コーヒーメーカー

家庭用
型番 **CM336N**

取扱説明書

この度は、保温ポット付コーヒーメーカー CM336N をお求めいただきまして、誠にありがとうございました。製品を正しく安全にお使いいただくため、ご使用前に、必ずこの取扱説明書を最後までお読みください。なお、お読みになった後は、保証書と共に大切に保管してください。



Made in Portugal

CM336N の特長

- **保温ポットでコーヒーを保温**
抽出したコーヒーは、そのままステンレス製の保温ポット（二重真空保温式）で保温します。
- **ゴールドフィルターを標準装備**
メッシュ部分の表裏を 23.8 金でコーティングしたゴールドフィルター（スイス製）を標準で装備。紙フィルターが不要です。
- **アロマボタン（※ 1 ～ 5 杯分抽出時に有効）**
「アロマボタン」を押すと、コーヒーの抽出をゆっくりと行ない、アロマをより引き出します。
- **自動電源 OFF 機能付き**
電源スイッチとアロマボタンは、電源を入れてから 15 分後に、自動的に切れます。

目次

・安全上のご注意	1 ～ 4
・各部の名称とはたらき	5
・内部洗浄	6
・使用手順（Ⅰ）：コーヒーの抽出	7 ～ 8
・使用手順（Ⅱ）：アイスコーヒーの作り方	9
・お手入れのしかた	10
・故障かな？	11
・レシピ	12
・仕様	13
・アフターサービス	14

安全上のご注意

各注意事項を、必ずお守りください。

1. ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」を最後までお読みください。
2. ここに示した注意事項は、製品を正しく安全にお使いいただき、あなたや他の人々への損害を未然に防止するものです。
3. 注意事項は、誤った取り扱いで生じることが想定される内容を、その危害や損害および切迫の度合いにより、「危険」「警告」「注意」の3つに分け、明示しています。

⚠ 危険

この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う危険が切迫して想定される」内容です。

⚠ 警告

この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。

⚠ 注意

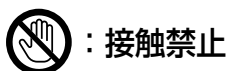
この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

4. 各注意事項には、「禁止」または「強制」を促す絵表示が付いています。

この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。



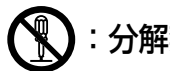
：禁止



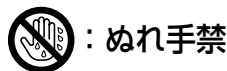
：接触禁止



：水ぬれ禁止

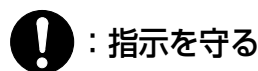


：分解禁止



：ぬれ手禁止

この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。



：指示を守る

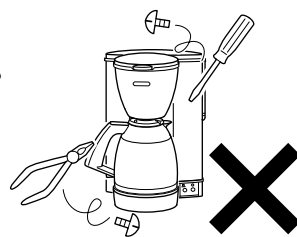


：電源プラグを抜く

⚠ 危険



・自分で絶対に分解・修理・改造は行わない
感電・火災の原因になったり、異常作動してケガをすることがあります。



⚠ 警告

電源／コンセントについて

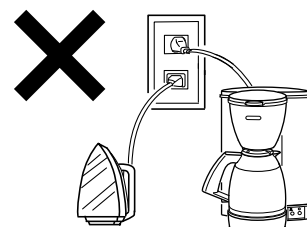


・電源は交流 100V (50/60Hz) で「15A 125V」と記されている壁面のコンセントに直接差し込む
他の機器と併用すると、発熱による火災の原因になります。

15A 125V



・コンセントは本製品だけ(単独)で使用する
コンセントの差し込み口が2つある場合は、片方の差し込み口を使用せず、空けたままにしてください。

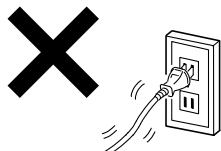




警告

電源／コンセントについて

- ・取り付けの悪いコンセントは絶対に使わない
取り付けの悪い(ガタツキのある)コンセントや差し込み口(刃受)のゆるいコンセントは、絶対に使用しないでください。感電や発熱の恐れがあります。

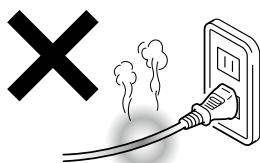


- ・延長コードやテーブルタップ、ソケットなどは絶対に使わない
コンセントや電源プラグ／電源コードが異常発熱し、発火する恐れがあります。

電源プラグ／電源コードについて

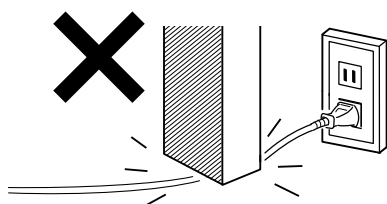
- ・電源プラグ／電源コードが異常発熱している場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く

使用中に、電源プラグ／電源コードが異常に熱くなる場合は、直ちに電源を切り、お求めの販売店または弊社サービスセンター(14ページ参照)に、ご相談ください。そのまま使用すると、ショートや発火する恐れがあります。



- ・電源プラグ／電源コードを破損するようなことはしない

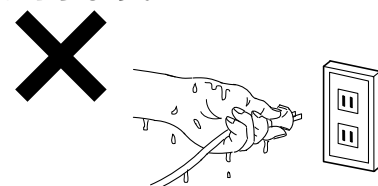
電源プラグ／電源コードは、大切に扱ってください。無理に曲げたり、物を載せたり、束ねたり、傷をつけないでください。傷んだまま使用すると、感電やショート、発火などの原因になります。



- ・動作中に電源プラグを抜き差ししない
感電・火災の原因になります。

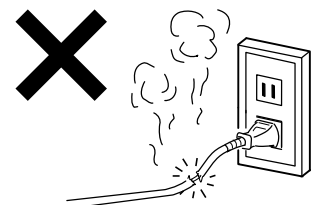
- ・電源プラグやコンセントに付着しているホコリやゴミは、定期的に取り除く
ホコリやゴミが湿気を帯びると、ショートや漏電、発火などの原因になります。

- ・ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない
感電する恐れがあります。



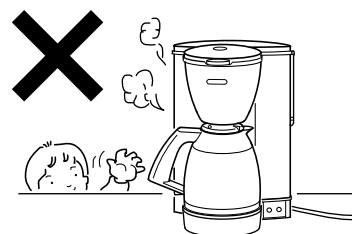
- ・電源プラグは、根元までしっかりと差し込む
不完全な接続は、感電や発熱による火災の原因になります。

- ・変形・破損している電源プラグ／電源コードは絶対に使わない
感電やショート、発火する恐れがあります。必ず、お求めの販売店または弊社サービスセンター(14ページ参照)に、交換を依頼してください。



使用中／使用後について

- ・お子様だけでは使わせない。幼児の手の届くところで使わない
ヤケド・感電・ケガの原因になります。





警告

使用中について

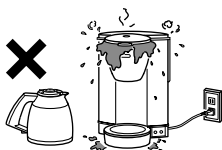


- ・異常が生じた場合は、使用を中止する
万一、異常が生じた場合は、直ちに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。異常な状態で使い続けると、事故や故障につながります。必ず、お求めの販売店または弊社サービスセンター（14ページ参照）までご連絡ください。

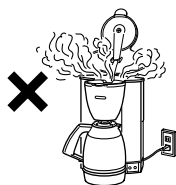


- ・コーヒーの抽出をする際は、必ず、しっかりと栓をした保温ポット（付属品）を台座の中央に乗せる

保温ポットがないと、抽出したコーヒーが溢れ出る恐れがあります。



- ・電源を入れた後は、コーヒーの抽出終了まで、絶対にふたを開けたり、保温ポットを台座から降ろしたり、本体を移動しない



- ・コーヒーの抽出中はふたの蒸気孔から高温の蒸気（湯気）が出てくるので、絶対に顔や手を近づけたり、ふさがない
また、フィルターホルダー先端のドリッパーも抽出されたコーヒーで高温になりますので、触れないでください。



- ・絶対に他の用途や屋外で使用しない
本製品（付属品含む）は、家事用のコーヒーメーカーです。



- ・保温ポットを直火にかけたりなど、絶対に他の用途で



- ・本体を持ち運ぶ際は、ホルダー受けを持たない

お手入れについて



- ・本体のお手入れは電源プラグをコンセントから抜き、各部が冷えてから行う
ヤケド・感電・ケガの原因になります。
コーヒー抽出後のホルダー受け内部（ゴールドフィルターおよびコーヒー粉、フィルターホルダー／ドリッパー）は高温です。

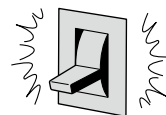


注意

電源について



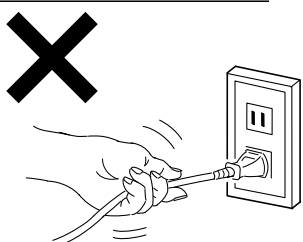
- ・ブレーカーが落ちる場合には、電力会社に連絡する
使用中にブレーカー（分電盤内の回路遮断器）が落ちる場合には、お近くの電力会社にご相談ください。



電源プラグ／電源コードについて



- ・電源プラグを抜くときは、電源コードを持たず、必ず電源プラグを持って抜く
電源コードを無理に引っ張ると、破損する恐れがあります。



- ・使用中は、電源コードを本体に触れさせない
熱で電源コードが傷み、感電やショートの原因になります。



注意

設置場所について



- ・本体は不安定なところや熱に弱い場所に置かない

本体や置いた物、場所が変形・変質したり火災の原因になります。



- ・屋外や水／湿気の多い場所（部屋）で使わない

ショートや感電の恐れがあります。

使用中／使用後について



- ・本体が転倒、落下したときには、使用せず、点検を依頼する

感電・火災の原因になります。



- ・本体に水やお茶をこぼさない

万一、こぼしてしまった場合は、ショートや感電の恐れがありますので、直ちに電源を切り、使用を中止します。その後、お求めの販売店または弊社サービスセンター（14 ページ参照）までご連絡ください。

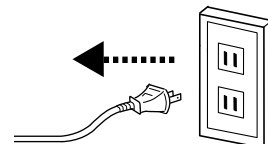


- ・使用後は、必ずタンクを空にする



- ・長期間使用しない場合は、必ず電源プラグを抜く

誤って、電源が入る恐れがあります。



- ・タンクには、新鮮で澄んだ水道水またはミネラルウォーターを入れる

タンクの水量：145cc ～ 1,450cc（水量表示窓の目盛 10 まで、M の文字にかからない）は、必ずお守りください。

お手入れについて



- ・絶対に、水に浸したり、水洗いをしない故障の原因になります。

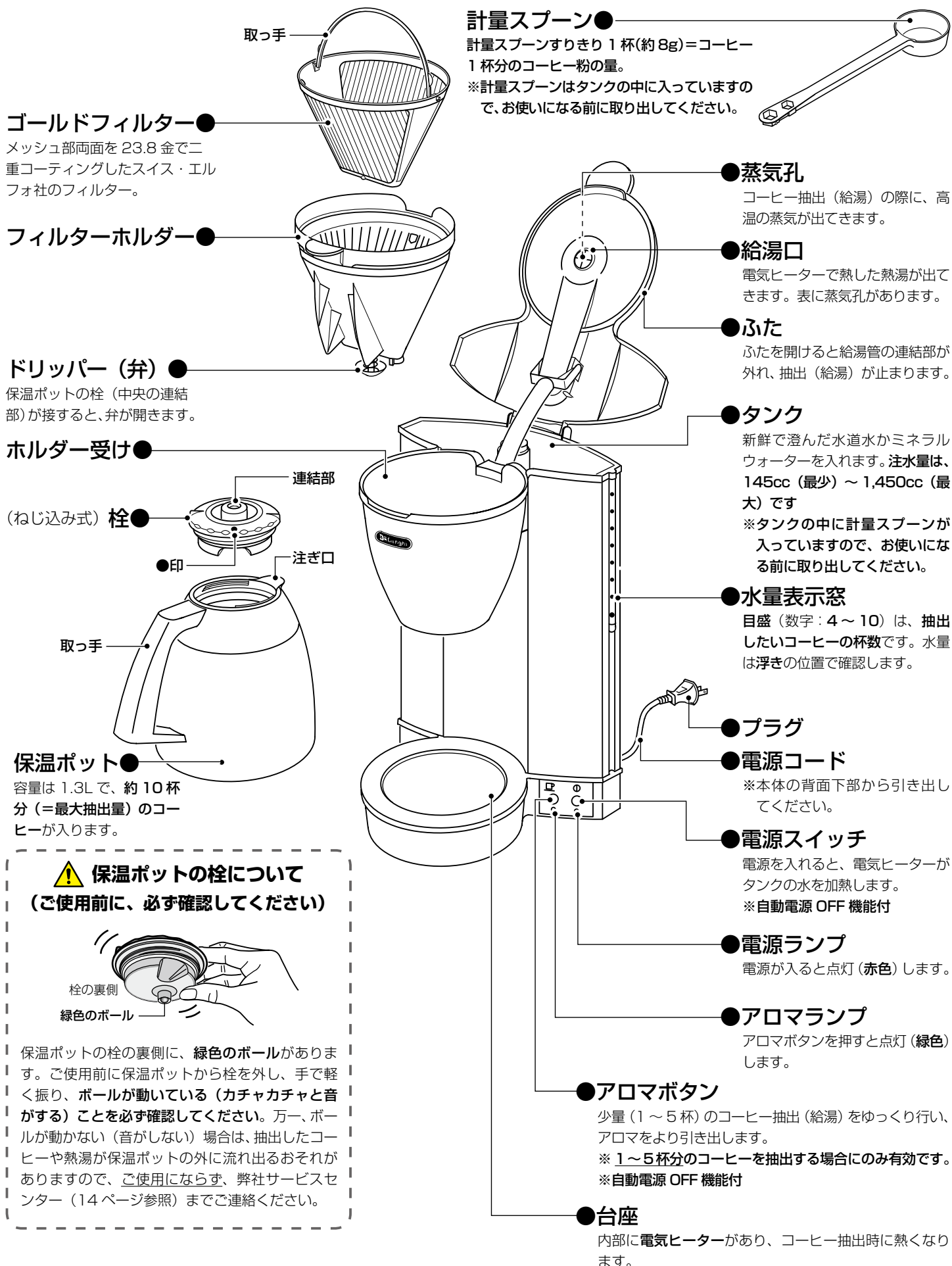
※ゴールドフィルター、フィルターホルダー、保温ポット（内部のみ）は水洗い（手洗い）できます。水洗いには、台所用洗剤と柔らかいスポンジをお使いください。



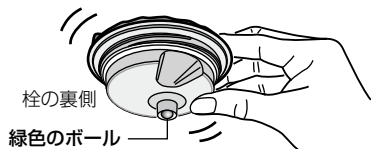
- ・ガラス磨き、シンナー、アルコール、ワイヤーワール、金ブラシ、たわし、研磨スポンジなどは使用しない

本体の表面が変質し、はがれ・変色・樹脂部品の割れの原因になります。

各部の名称とはたらき



⚠ 保温ポットの栓について (ご使用前に、必ず確認してください)



保温ポットの栓の裏側に、**緑色のボール**があります。ご使用前に保温ポットから栓を外し、手で軽く振り、ボールが動いている (カチャカチャと音がする) ことを必ず確認してください。万一、ボールが動かない (音がしない) 場合は、抽出したコーヒーや熱湯が保温ポットの外に流れ出るおそれがありますので、ご使用にならず、弊社サービスセンター (14 ページ参照) までご連絡ください。

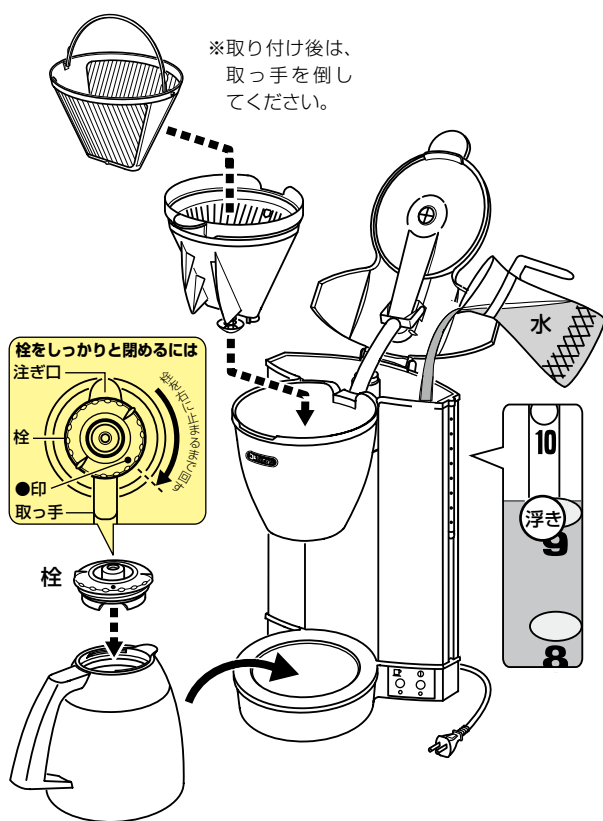
内部洗浄

最初のご使用前に、必ず行ってください。

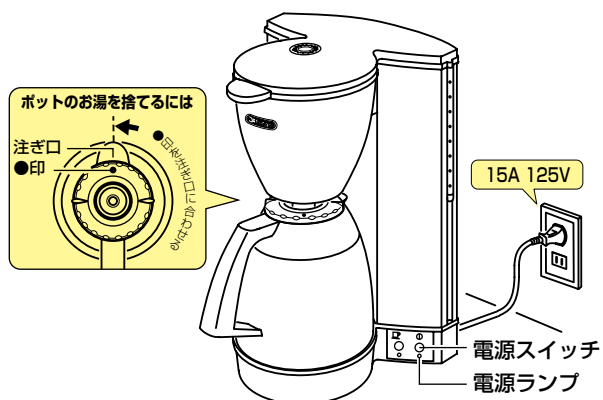
本製品を最初に使用する際は、事前に、本体内部の配管（給湯管など）を下記の要領で洗浄してください。なお、この手順で、コーヒー抽出前の保温ポットの湯煎もできます。

内部洗浄をする ときの注意

- ・ホルダー受けに、フィルターホルダーをカチッというまでしっかりと取り付け、ゴールドフィルターをセットしてください。
- ・保温ポット（空の状態）の栓を、右に止まるまで回して閉じてください。
- ・タンクへの注水量は、必ず、目盛 9（水量表示窓）以下にしてください。



- ① 栓をしっかりと閉めた保温ポットを、台座の中央（＝ドリッパーの真下）に乗せます。
 - ② ふたを開け、タンクの目盛 9（水量表示窓）まで、澄んだ水道水を入れます。そして、ふたをしっかりと閉めます。
 - ③ プラグを壁面のコンセントに直接差し込み、電源スイッチを押します。電源が入ると電源ランプ（赤色）が点灯します。
 - ④ しばらくすると、ポコポコという沸騰音と共に給湯が始まり、熱湯がドリッパーを通して保温ポットに流れ込みます。また、ふたの蒸気孔からは高温の蒸気が出てきます。
- ⚠ヤケド注意：給湯中は、絶対にふたを開けたり、蒸気孔に顔や手を近づけないでください。
- ⑤ 約 8 ～ 9 分後に沸騰音が止まり（＝タンクの水が無くなり）、給湯が終了／停止します。
- ⚠ヤケド注意：終了直後のホルダー受け内部は高温ですので、ふたを開けないでください。
- ⑥ 電源スイッチを押して、電源を切ります（→電源ランプ消灯）。
※続けてコーヒーの抽出を行う場合には、必ず、3 分以上の休み（＝電源を切った状態）を入れてください。
 - ⑦ 保温ポットを台座から降ろし、栓の●印を注ぎ口に合わせて、中のお湯を捨てます。



⚠ ゴールドフィルターについて

本製品に付属しているゴールドフィルターには、**中挽きから粗挽きの豆が適しています。**コーヒー豆を店頭で挽いてもらう際には、ゴールドフィルターを使用することを伝えて、中挽きか粗挽きを指定してください。お手持ちのコーヒーグラインダーで挽く際にも、中挽きか粗挽きになるように調整してください。それよりも細かく挽いた豆を

お使いになると、多量のコーヒーを抽出する際に、溢れてくる恐れがあります。

また、ゴールドフィルターは微細な穴からコーヒーを通す構造になっているため、粒度の細かいコーヒー粉がコーヒーに混じることがありますが、製品の不具合ではありません。気になる場合は、市販のペーパーフィルターをお使いください。

使用手順（Ⅰ）：コーヒーの抽出

1 杯分の抽出量は約
125～130cc。



- ★水量が水量表示窓の目盛にない 1～3 杯抽出の場合は、お手元の計量カップ等で測ってください。
- ・コーヒー粉の量は目安ですので、お好みで調整（最大 12 杯）してください。

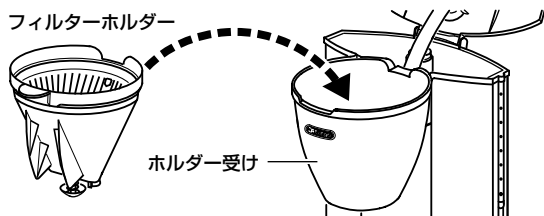
ご希望の杯数	タンクの水量	コーヒー粉の量 (計量スプーンの杯数)	アロマボタン
1 (最少)	145cc	1	○ (必要)
2	290cc	2	○
3	435cc	3	○
4	4	4	○
5	5	5	○
6～9	6～9	6～9	× (不要)
10 (最大)	10	10	×

1 保温ポットを温める（湯煎する）

事前に保温ポットにお湯を入れ、温めてください。

2

フィルターホルダー



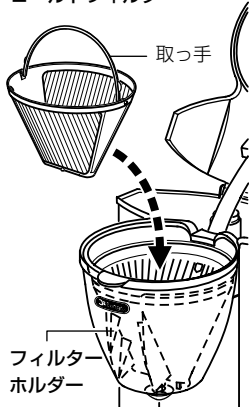
ホルダー受け

フィルターホルダーを取り付ける

フィルターホルダーを、ホルダー受けに正しい向きでカチッというまでしっかりと固定します。

3

ゴールドフィルター



取っ手

フィルターホルダー

すりきり 1 杯 (約 8g) = コーヒー 1 杯分

計量スプーン



ゴールドフィルター
※取っ手は、必ず倒してください。

ゴールドフィルターをセットし、コーヒー粉を入れる

フィルターホルダーにゴールドフィルターをセットし、付属の計量スプーンを使って、適量の（※）コーヒー粉を入れます。

- ▶ コーヒー粉は、新鮮で中～粗挽きのものをご使用ください。

※計量スプーンすりきり 1 杯（約 8g）＝カップ 1 杯分のコーヒー抽出に適した粉量（目安）です。ただし、12 杯以上は入れないでください。

4



保温ポットは、必ずお湯を入れて温める

★ 10 杯分（最大水量）の場合



タンクに水を入れる

本体右側面にある水量表示窓の目盛（※ 4～10＝杯数）を目安に、ご希望の水量（★）をタンクに入れます。その後、ふたをしっかりと閉めます。

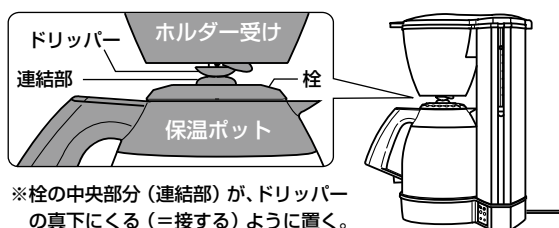
※目盛にない 1～3（杯分）は、カップ 1 杯分に必要な水量＝約 145cc（→抽出量は約 125cc）を目安に、注水してください。

★最大水量（1,450cc＝カップ約 10 杯分）は、目盛 10 を超えないで（MAX 表示の M の文字にかからない）ください。それ以上入れると、保温ポット（容量：1,300cc）からコーヒーが溢れ出ます。

- ▶ 水は、新鮮で澄んだ水道水またはミネラルウォーターをご使用ください。

製品およびコーヒー抽出の“基本操作”ですので、必ず行ってください。

5

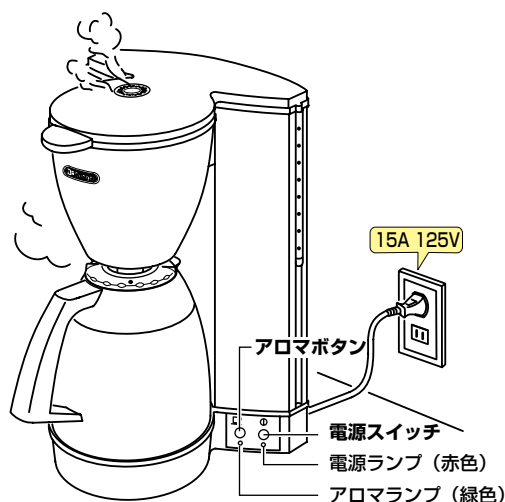


保温ポットを台座に乗せる

空にした保温ポットにしっかりと栓（★）をして、台座の中央（＝ドリッパー（弁）の真下）に乗せます。

★栓は、必ず右に止まるまで回して閉めてください。
不完全の場合は、ドリッパーが正常に動きません。

6



電源を入れる（コーヒー抽出）

プラグを壁面のコンセントに直接差し込み、電源スイッチ（★）を押します。電源が入ると電源ランプ（赤色）が点灯し、タンクの水を加熱します。しばらくすると、ポコポコという沸騰音と共に給湯／コーヒーの抽出が始まります。抽出したコーヒーはドリッパーを通り、保温ポットに流れ込みます。

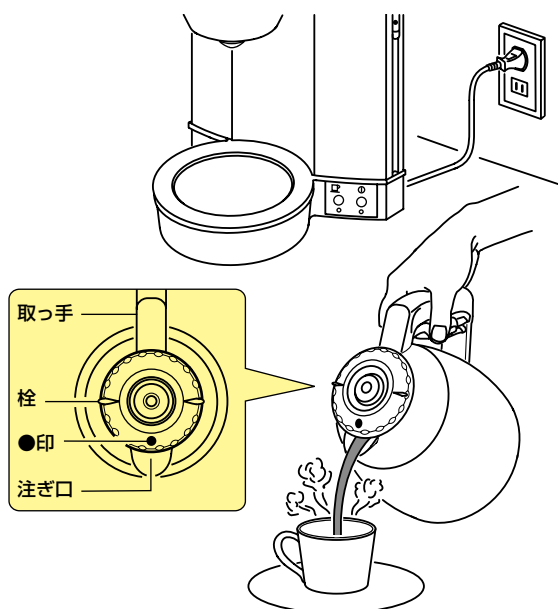
★1～5杯のコーヒーを抽出する場合は、アロマボタンを押してから（→アロマランプ（緑色）点灯）、電源スイッチを押してください。アロマボタンを押さずに抽出すると、アロマ（香り）と風味が十分に引き出せず、苦味のみが抽出されます。



ヤケド注意

抽出（給湯）中に本体を移動したり、ふたを開けたり、蒸気孔に顔や手を近づけたり、保温ポットを台座から降ろすことなどは、絶対にお止めください。

7



抽出終了後、保温ポットを降ろす

タンクの水が無くなるとシューツという音だけになり、コーヒーの抽出が終了します。カップにコーヒーを注ぐには、栓の●印を注ぎ口に合わせます。

※電源スイッチとアロマボタンには、「自動電源 OFF 機能」がありますので、電源を入れてから15分後に自動的に電源が切れ、電源ランプおよびアロマランプが消灯します。それ以前に電源を切りたい場合は、電源スイッチを押してください。

※続けてコーヒー抽出を行う場合は、手動で電源を切り、3分以上の休み（＝電源を切った状態）を入れてください。

▶ コーヒー本来の「香り」と「風味」は、時間の経過と共に失われていきますので、なるべく早くにお召し上がりください。

8

使用後は、必ずプラグをコンセントから抜く



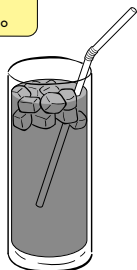
ヤケド注意

抽出終了直後のホルダー受け内部やドリッパーは高温ですので、ふたを開けたり、手で触れないでください。また、お手入れは、各部が冷えてから行ってください。

使用手順（Ⅱ）：アイスコーヒーの作り方

※必ず、先に「使用手順（Ⅰ）」
をお読みください。

1 杯分の抽出量は約
200～220cc。



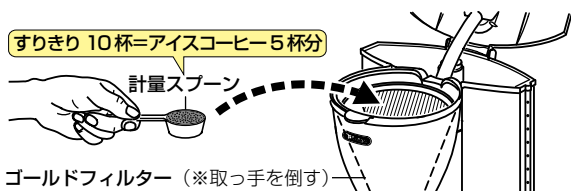
ご希望の杯数	タンクの水量	コーヒー粉の量 (計量スプーンの杯数)	保温ポットの氷量 (ポット内の目分量)	アロマボタン
1 (最少)	145cc	2	約 200g	○ (必要)
2	290cc	4	約 380g	○
3	435cc	6	約 500g	○
4	4	8	約 550g	○
5 (最大)	5	10	約 620g (口まで)	○

★水量が水量表示窓の目盛にない 1～3 杯抽出の場合は、お手元の計量カップ等で測ってください。
・抽出後、コーヒーは氷で薄まりますので、コーヒー粉の量＝ご希望の杯数×2にしてください。

以下の手順は、5 杯分（最大）を作る場合です。必ず、アロマボタンを押してください。

1 フィルターホルダーを取り付け、ゴールドフィルターをセットする

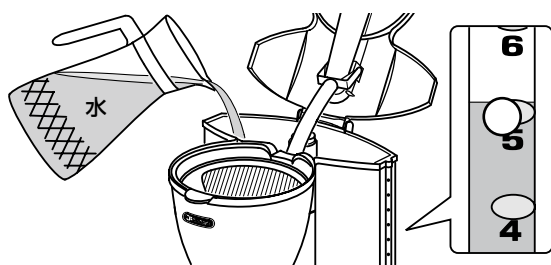
2



コーヒー粉を入れる

付属の計量スプーンで、すりきり 10 杯分のコーヒー粉をゴールドフィルターに入れます。

3

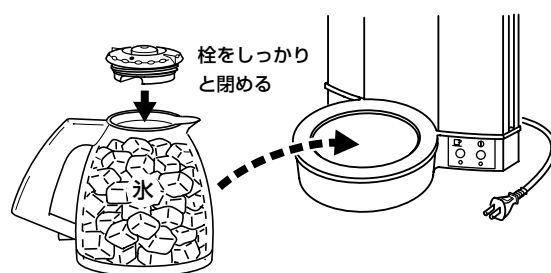


タンクに水を入れる

水量表示窓の目盛 5 (※) まで水を入れ、ふたをします。

※これ以上入ると、保温ポットからアイスコーヒーが溢れてしまいます。

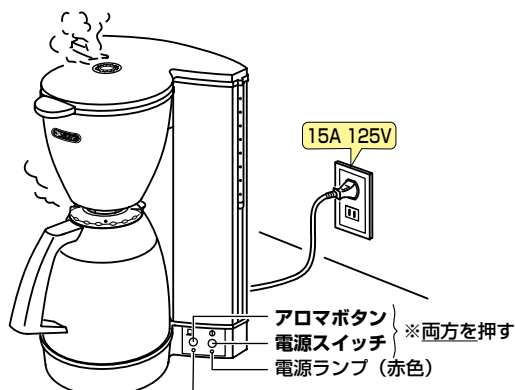
4



保温ポットに氷を入れ、台座に乗せる

保温ポットの口まで (約 620g) 氷を入れて栓を閉め、台座に乗せます。氷を入れ過ぎると、栓がしっかりと閉まらなくなるので、ご注意ください。

5



電源を入れる（コーヒー抽出）

プラグを壁面のコンセントに直接差し込み、アロマボタンおよび電源スイッチを押します。しばらくするとコーヒーの抽出が始まります。タンクの水が無くなると沸騰音が止まり、抽出の終了です。すぐに保温ポットを台座から降ろしてください。

使用後は、プラグをコンセントから抜きます。

▶ 時間が経つと氷でコーヒーが薄まりますので、早めにお召し上がりください。保存する場合は、別の容器に移し、冷蔵庫に入れてください。

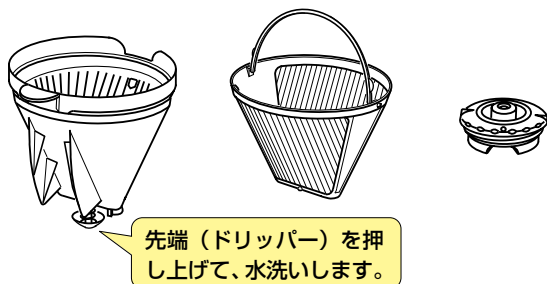
お手入れのしかた

使用頻度や汚れ具合にもよりますが、下記の要領でお手入れをしてください。

お手入れをする ときの注意点

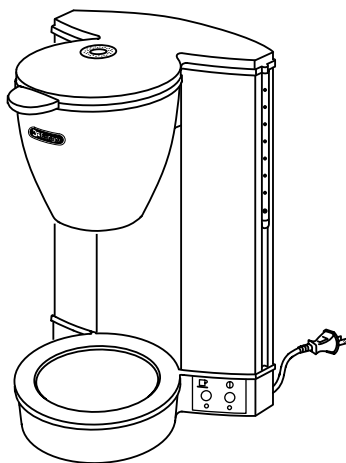
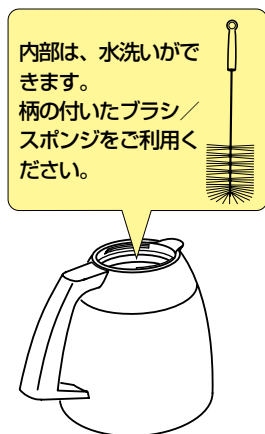
- ・ 事前に、必ずプラグをコンセントから抜いてください。
- ・ 使用後すぐのお手入れは、お止めください。まだ熱いのでヤケドの危険があります。
- ・ 本体のお手入れは、タンク内の水を捨て、台座が冷えてから行ってください。

<水洗いできます>



- ・ 使用後は毎回、台所食器用洗剤と柔らかいスポンジで水洗いします。
 - ・ ゴールドフィルターがコーヒーの油脂分で目詰まりした場合は、少量の台所食器用洗剤を入れたぬるま湯にしばらく浸けてから、お手入れをしてください。
- ▶ クレンザーや金たわし、ベンジンやシンナー等は、使用しないでください。

<水洗いできません>



- ・ 表面の汚れは、固く絞った濡れ布きんで拭き取ります。
- ・ 落ちにくい汚れは、少量の台所食器用洗剤を含ませた布で拭き、次に、固く絞った濡れ布きんで洗剤をよく拭き取ります。
- ・ 保温ポット内の汚れは、柄の付いたブラシ／スポンジ（※）に少量の台所食器用洗剤を含ませて拭き取ります。その後、洗剤をよく洗い流してください。

※無理に手を差し込まないでください。

▶ 水に浸けることは、絶対にお止めください。

石灰分の除去

長く使っていると、内部の給湯管などに水中の石灰分が付着し、お湯の出が悪くなる場合があります。そこで、8～10ヵ月に一度を目安に、下記の要領で石灰分の除去を行ってください。詳しい操作は、6P.「内部洗浄」を参照してください。

- ① ホルダー受けにフィルターホルダーを取り付け、栓をした保温ポットを台座に乗せます。
- ② タンクの目盛 6（水量表示窓）まで水を入れ、そこに**大サジ 1 杯分の酢**を加えてふたをします。
- ③ そのまま 5 分ほど待ってから、プラグを壁面のコンセントに差し込み、電源スイッチを押します。
電源が入ると電源ランプが点灯、しばらくすると沸騰音と共に給湯（内部洗浄）が始まります。
- ④ タンクの水が無くなり、沸騰音が止まると、給湯の終了です。
- ⑤ 電源を切り、3 分ほど「休み」をとります。保温ポットを空にしてすぐ、再び台座に乗せます。
- ⑥ タンクに水だけを目盛 8 まで入れ、再び給湯を行います。さらに給湯を 2～3 回繰り返し、酢の臭いが消えたら終了です。

故障かな？

修理を依頼される前に、以下の点をお調べください。

使用中に異常が生じた場合は、直ちに電源を切り、使用を中止してください。その後、本体および各部が冷えてから、以下の点をお調べください。なお、修理のご依頼は、14 ページ「アフターサービス」を参照してください。

状 態	予 想 さ れ る 原 因	対 処 の し か た
コーヒーが抽出されない／ 保温ポットに落ちてこない	・ プラグがコンセントに入っていない	・ プラグをコンセントに差し込む
	・ 電源が入っていない	・ 電源スイッチを押して、電源を入れる → 電源ランプ（赤色）が点灯
	・ タンクに水が無い	・ タンクに、適量の水を入れる
	・ フィルターホルダーの取付けが不完全	・ ホルダー受けに、カチッというまで、しっかりと取り付ける
	・ ドリッパーにコーヒー粉が詰まっている	・ フィルターホルダー先端（ドリッパー）を押し上げて、水洗いする（10P. 参照）
	・ ゴールドフィルターの取付けが不完全	・ フィルターホルダーに、正しい向きでセットする
	・ コーヒー粉が入っていない	・ ゴールドフィルターに、適量のコーヒー粉を入れる
	・ 本体のふたが開いている	・ ふたをしっかりと閉める
	・ 栓をした保温ポットが、台座に乗っていない／ 台座からズレている	・ 栓をしっかりと閉めた保温ポットを、台座の中央に乗せる
	・ 保温ポットの栓が、完全に閉まっていない（取付けが不完全）	・ 栓を、右に止まるまで回して閉める
コーヒーの出（落ち）が悪い	・ ゴールドフィルターの目詰まり	・ 少量の台所食器用洗剤を入れたぬるま湯にしばらく浸けてから、お手入れをする（10P. 参照）
	・ ドリッパーにコーヒー粉が詰まっている	・ フィルターホルダー先端（ドリッパー）を押し上げて、水洗いする（10P. 参照）
	・ コーヒー粉（挽き具合）が細か過ぎる	・ 次回は、やや粗めに挽いた粉を使う
	・ 給湯管に石灰分が付着している	・ 石灰分の除去をする（10P. 参照）
コーヒーに多量の粉が混じる	・ コーヒー粉（挽き具合）が細か過ぎる	・ 次回は、やや粗めに挽いた粉を使う
コーヒーが保温ポットから 溢れる	・ タンクの水量が、最大量を超えている	・ 最大水量（コーヒー抽出時：目盛 10、内部洗浄時：目盛 9）を超えないこと ※ 水量が、MAX 表示の M の文字にかからないように、 ご注意ください。
コーヒーがフィルター受け から溢れる	・ フィルターホルダーの取付けが不完全	・ ホルダー受けに、カチッというまで、しっかりと取り付ける
	・ ドリッパーにコーヒー粉が詰まっている	・ フィルターホルダー先端（ドリッパー）を押し上げて、水洗いする（10P. 参照）
	・ ゴールドフィルターの取付けが不完全	・ フィルターホルダーに、正しい向きでセットする
	・ コーヒー粉の入れ過ぎ	・ コーヒー粉の最大量（計量スプーンすりきり 12 杯）以上を入れないこと
	・ 栓をした保温ポットが、台座に乗っていない／ 台座からズレている	・ 栓をしっかりと閉めた保温ポットを、台座の中央に乗せる
抽出したコーヒーがぬるい	・ 抽出前に、保温ポットを温めていない （※アイスコーヒーには不要）	・ 事前に、保温ポットにお湯を入れて温める （→お湯は抽出前に捨てる）

材料（1人分）の各分量は目安です。お好みにより、量を調節してください。



【コーヒーの抽出：4杯分】▶必ず、アロマボタンを押してください。

- ・ コーヒー粉（★中挽き）：計量スプーンすりきり6杯
- ★「浅煎り」および「中煎り」のコーヒーでは牛乳の濃さに負けてしまうので、「やや深煎り」のフレンチローストをご使用ください。
- ・ タンクの水量：目盛4

【材料：1人分】

- ・ 濃いめに抽出したコーヒー：100ml
- ・ 温めた牛乳（ホットミルク）：100ml

【作り方】

カップに抽出したコーヒーとホットミルクを同量入れ、よく混ぜ合わせます。
※「深煎り」のイタリアンローストを使用する場合には、コーヒーとホットミルクを1：3の割合にしてください。



【コーヒーの抽出：4杯分】▶必ず、アロマボタンを押してください。

- ・ コーヒー粉（★中挽き）：計量スプーンすりきり4～5杯
- ★お好みのコーヒーをご使用ください。
- ・ タンクの水量：目盛4

【材料：1人分】

- ・ 濃いめに抽出したコーヒー：150ml
- ・ 温めたアイリッシュ・ウイスキー：20ml
- ・ ホイップクリーム（半立て）：20ml
- ・ 白ザラメ（砂糖）：15g

【作り方】

① グラスに白ザラメを入れ、温めたアイリッシュ・ウイスキーを加えます。
② ①に、抽出したコーヒーを注ぎ、静かにホイップクリームを浮かべます。
※かき回さずに、そのまま、層になっている味わいの変化をお楽しみください。
※アイリッシュ・ウイスキーの代わりにティアマリアを入れると「カリブソコーヒー」、ウォッカにすると「ロシアンコーヒー」になります。



【コーヒーの抽出：4杯分】▶必ず、アロマボタンを押してください。

- ・ コーヒー粉（★中挽き）：計量スプーンすりきり6杯
- ★深煎りのイタリアンローストをご使用ください。
- ・ タンクの水量：目盛4

【材料：1人分】

- ・ 濃いめに抽出したコーヒー：100ml
- ・ 温めた牛乳（ホットミルク）：60ml
- ・ ホイップクリーム：20ml

【作り方】

① カップに抽出したコーヒーとホットミルクを5：3の割合で注ぎ、よく混ぜ合わせます。
② ①に、静かにホイップクリームを浮かべます。

仕様

製品名称 / 型式番号		保温ポット付コーヒーマーカー / CM336N
定格：電圧 / 周波数 / 消費電力		交流 100V / 50/60Hz / 1000W
温度ヒューズ		260℃
外形寸法 / 重さ (保温ポット含む)		幅 230 × 奥行 245 × 高さ 345mm / 3.2kg
容量	タンク	最大水量：1.45L (約 10 杯分のコーヒー抽出に必要な水量)
	保温ポット	最大量：1.3L (コーヒー約 10 杯分の量)
電源コードの長さ		2m
付属品		ゴールドフィルター (装着済)、計量スプーン

	各部	材質
コーヒーマーカー	本体 (表面)	アルミニウム
	ふた、タンク、フィルターホルダー、ホルダー受け	ポリプロピレン
保温ポット	胴体 (表・内部)	18-10 ステンレス
	栓、取っ手	ポリプロピレン

別売品

- ・保温ポット 【Mod.CM336SJ】 価格 10,290 円 (本体価格 9,800 円、消費税 490 円、送料別)
 - ・ゴールドフィルター 【Mod.CM336GF】 価格 5,040 円 (本体価格 4,800 円、消費税 240 円、送料別)
- お求め方法 ▶ 販売店もしくは弊社サービスセンター (14 ページ参照) まで、電話または Fax. でご注文ください。

この製品は欧州RoHS指令に適合した製品です。

欧州RoHS指令とは、「電気・電子機器の特定有害物質の使用制限」を規定した欧州連合(EU)による指令です。この製品は、鉛及びその化合物、水銀及びその化合物、六価クロム化合物、カドミウム及びその化合物、ポリブロモビフェニル (PBB)、ポリブロモジフェニルエーテル (PBDE) の含有率が、いずれも含有率基準値以下であり、環境に配慮して製造されました。



アフターサービスについて

- 使用中に異常が生じた場合は、ただちに電源を切り、プラグをコンセントから抜いてください。その後、お求めになった販売店または弊社サービスセンター（下記参照）にご相談ください。

— 〈以下のような場合には、点検および修理が必要です〉 —

- ・使用中、電源コードおよび電源プラグ、コンセントが異常に熱くなる
- ・電源コード、電源プラグが変形／破損している
- ・本体の機器内部に水などの液体をこぼした
- ・本体に強い衝撃を与えた
- ・取扱説明書どおりに使用しているのに、正常に機能しない

- 万一、故障／損傷した場合は、保証書に記載されている販売店に **1. お求め時期 2. 製品名称と型式番号 3. 故障の状況** を連絡のうえ、修理を依頼してください。なお、弊社サービスセンターにご依頼される場合は、お電話または直接宅配便でお送りください。宅配便の場合は、必ず故障の状況を記したメモを商品パッケージ（梱包箱）に同封してください。

- 保証期間中（1年）は、保証書に記載されているものについては、無償で修理いたします。ただし、安全上および使用上の注意を無視しての故障、規格外に改造をしたものは、その限りではありません。また、保証期間が過ぎたものについては、有償で修理いたします。

- 真心点検のお勧め：長い期間でご利用いただくために、専門技術者による点検・整備も実施しております。点検の依頼方法、料金などにつきましては、弊社サービスセンターまでお問い合わせください。



※下の枠内に、ご購入年月日を記入してください。点検の目安になります。

ご 購 入 年 月 日 : 年 月 日

- デロンギ再資源化システムについて：ご不用になった製品は、下記の要領に従い、弊社サービスセンターまでお送りください。素材ごとに分別し、再資源化いたします。



送料について：再資源化の費用は弊社が負担いたしますが、送料はお客様のご負担（元払い）となります。予めご了承ください。

梱包について：製品の入っていた箱（元箱）に入れてお送りください。元箱がない場合は、段ボール箱に入れるか、エアパッキンにくるんでください。

※外箱または送り状に、必ず「再資源化」と明記してください。

以上、アフターサービスについてご不明の点がございましたら、お求めの販売店または弊社サービスセンターまでお問い合わせください。

デロンギ・ジャパン サービスセンター（受付時間▶土、日、祝日を除く毎日9:30～18:00）

コールセンター

修理について Tel.0120-804-280

Tel.0120-692-885

お問い合わせ Tel.0120-064-300

Tel.0120-692-880

／ Fax.045-450-3291

〒221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町3-9 安田倉庫(株)内4号ビル

ホームページでのお問い合わせ（URL）

<http://www.delonghi.co.jp>



Italian Living Innovation



デロンギ・ジャパン株式会社

〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町1-5-6 第3大東ビル Tel. 03-5256-6321(代)

De'Longhi Forum

イタリアのライフスタイル情報満載！デロンギフォーラム無料会員募集中！

詳しくは <http://www.delonghiforum.jp>



再生紙を使用しています。